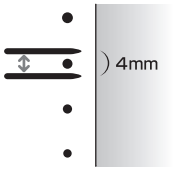
注意点1 右手

繊細な右手の動きで破壊的なサウンドを出そう

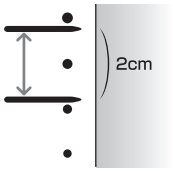
破壊力と疾走感を感じさせるマシンガン・ピッキング。その元祖となるゲイリー・ムーアは、いわゆる“きれいな速弾き”ではなく、“生々しく豪快な速弾き”を聴かせていた。しかし、マシンガンピッキングは、力任せに弾いてはいけない。激しく音圧感をキープさせるために、ピックの振りに注意する必要があるのだ。一般的な速弾きに適したピッキングは無駄なく振り幅を小さくしたタイプ(図1-a)。しかしこれでは音圧感が出ない。それに対して、ピックを両隣弦間約2cmのギリギリまで振るタイプでは、音圧感のあるサウンドを生み出すことができる(図1-b)。いわゆるマシンガンピッキングとは後者を指す。まさに力技と言えるが、この2cm間を行き来する繊細なコントロール力も持っていなくてはいけないのだ。

図1-a　一般的な高速ピッキング



振りが小さく無駄が少ないが、
音圧感が出ない。

図1-b　マシンガン・ピッキング



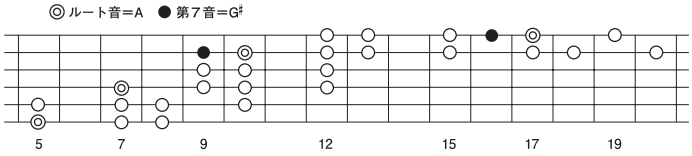
振りが大きいため、音圧感が出る。
ただし、ピッキング・コントロールが難しい。

注意点2 左手

スケールを覚えてフレーズの流れを掴め！

このフレーズは、基本的にAナチュラル・マイナー・スケールで作られている(図2)。基本的と言ったのは、2小節目3拍目(2弦9フレット)と4小節目3拍目(1弦16フレット)のEメジャー・コードの部分のみG音を半音上げたAハーモニック・マイナーを絡ませているからだ。このような高速ソロ・フレーズを弾く際には、まずスケールなどで左手の流れを確認することが大切。TAB譜を目で追いながら少しずつ速弾きができるようになっても、フレーズ全体を繋げられないと意味がない。フレーズ全体をスムーズに弾きとおすためには、ポジショニングとスケールの理解が不可欠だ。TAB譜だけを目で追って練習しているのではダメだぞ！

図2　Aナチュラル・マイナー・スケール



Aナチュラル・マイナー・スケールをベースに
Aハーモニック・マイナー・スケールの音であるG♯音を絡ませている。

～コラム14～

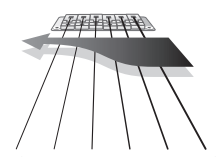
地獄の戯れ言

ゲイリー・ムーアやジョン・サイクスが行なうマシンガン・ピッキングの特徴に、高音弦と低音弦でブリッジ・ミュートのかけ具合いを変えていることが挙げられる。低音弦を弾いている時は、ブリッジ・ミュートをしっかりとかけ、次に3弦に向かって徐々にミュートを緩め、1＆2弦はノン・ミュートで弾く(図3)。低音弦はミュートにより低音が締まり、高音弦に行くにしたがってサウンドが開放されていくのだ。マシンガン・ピッキングの醍醐味は、ギター特有のサウンド変化を演出し、フレーズ全体のダイナミクスを操ること。ワンランク上のギタリストを目指すためには、こういった細かいニュアンスをつけることが大切だ。

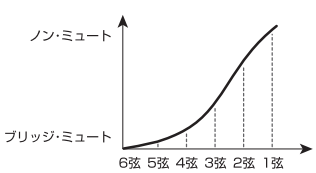
マシンガン・ソロのためのミュートのススメ

図3　マシンガン・ピッキングのためのブリッジ・ミュート

ミュートの加減のイメージ図



ミュートの加減のグラフ



1弦に向かうにつれて、ミュートの力加減を弱めていく。